KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Inches
Centimetres
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B
ル 4
513
2

ル 4
1543
2

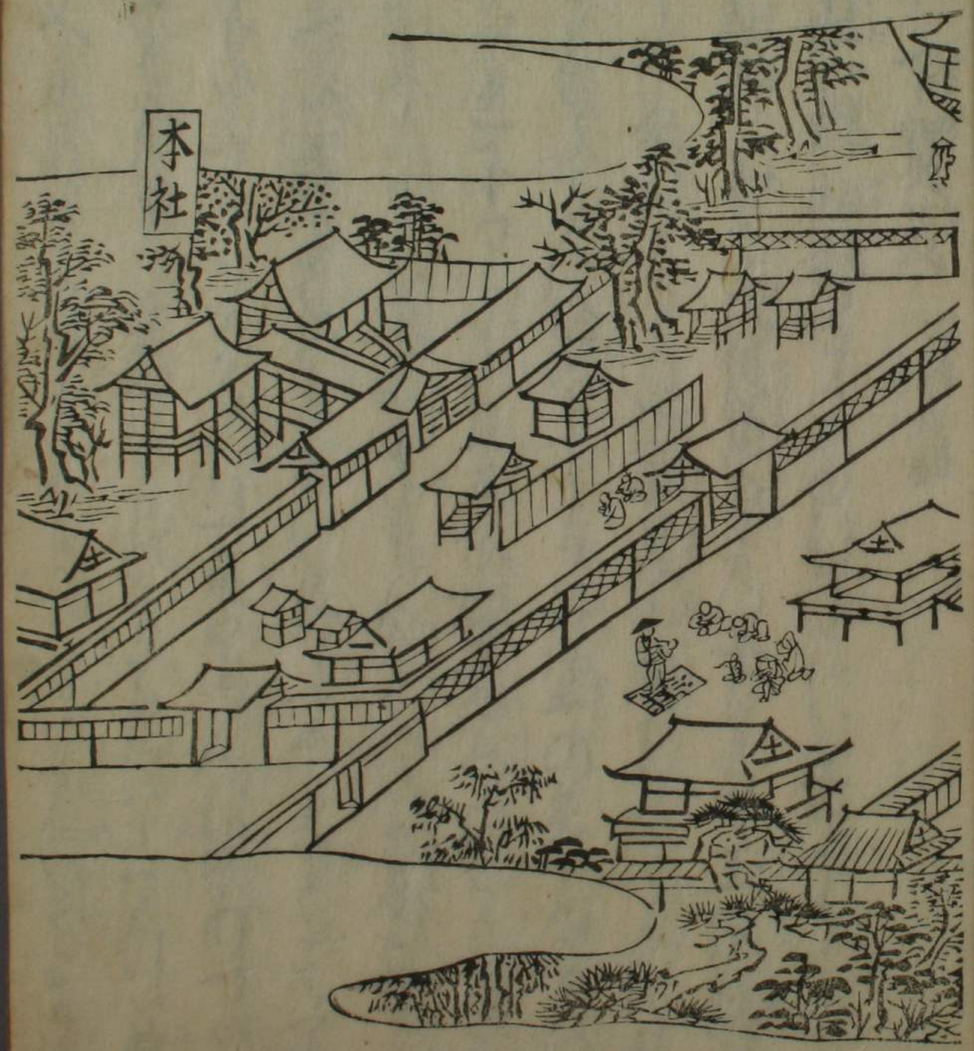
京都帝国大学図書之印

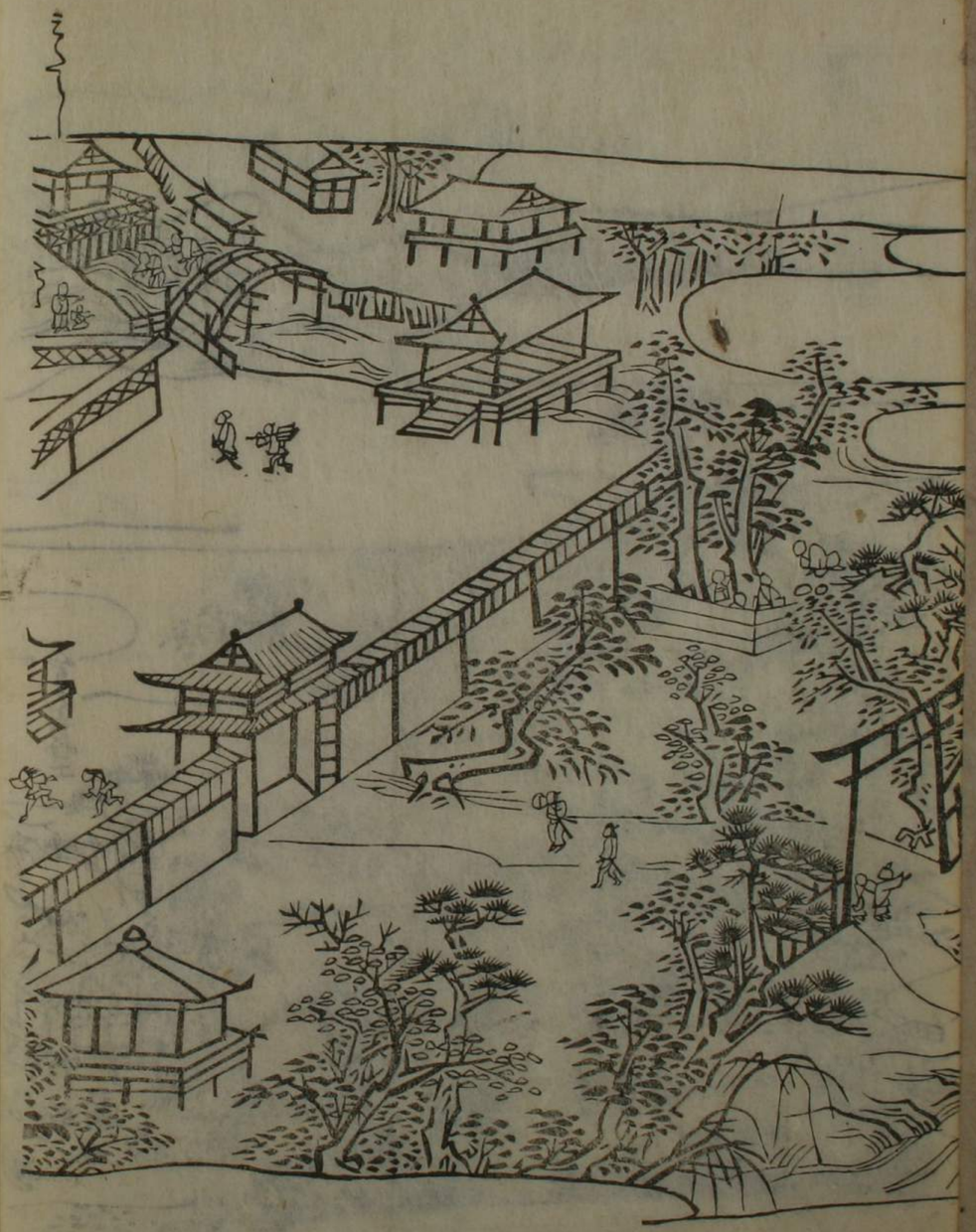
洛陽名所集巻之二目録

下賀茂　　瀬見小河　　吉田　社　神
神楽岡　　白川　　春日祭
観音堂　　明星水　　龍沈池
神恩院　　吉田寺　　智福院
鹿谷　　長刀坂　　永観堂　見後
稲荷森　　如意嶽山　　白川
　　清土寺
　　駒瀧
　　慈照寺

ムさし音曲土

下賀茂


本社



下賀茂

下鴨日縫

○社ハ御祖神なり。ものいみに立給ふ
御祖神ハ賀茂健角命乃女なり。玉依姫を
孕しぬ。のち紀瀬見小河なるに遊
びあるに。河上より丹塗の矢流れ
ながるを下ると。玉依姫ひろひとり。屋上
にさしはさみ。こやどりしたるに。乃男となる。
化すみ男子をもうけ給ひぬ。どこを父
いうべきぞ。一日。雷鳴わつ光
宴もなりて。丹塗の矢男子にさづけ。汝
の父なるべし。やくいひ給ふ。

面白虚空ふるけうち家屋破損し。
あい天神まちるのみなりとぞいふく天ふのぐるく
よぶしーしぐ。是ゐん別雷神也丹塗矢
八今の松尾大明神也
新古今に慈圓立のゆ歌彼ふ乃ふ
をんとゝ紀のみやの家のたよ歌
玉葉集に後成立ゆ歌
物ゐれいしゐ紀社ゐもくを

○御多洗　本社東のゐ門なわ水ゐる
山社を後ひ紀ぎへにかてひせゐ井かゐさ
け川ゐく六月ゐなゐやゐ八雷およ
云ゐ祓邪神をゐくへゐごむゐ方ゐなゐ
と云ゐゐ。行ゐ多ゐ串ゐくあゐ家
ゐ。あてゐる家やゐ夕又書ゐ事ゐ公事根
延式ゐ。六月祓ゐ天武天皇
社ゐ。ゐ始ゐ。ゐ。ゐ。

いと事や。賀茂神の社の。後の。新
しき水は面に移るハうちんてんて走
さなり
けいのあるをさよくとひしいうあやうま
いくるとぢうさいるあるんうだ面
ふに。霊威いてぐふくて詩人孫ともぢふ
なりうみをハ月丈日ようの時のぢうぐハうや
こんをうるくうるうづひあぞんふに。興ぢて
さかをうづひあぞんふに。興ぢて
巣屋は軒ぢぐハにうるうに
うるくのわざとにひさるも

なるぢうざ。形ぢにろひちいさにまる編
色いうつがるこ二枝は竹ぐーにしおる
土ぬるは黒物ようぐハうぢ火ようぐ。
さをいひいくくもくるーぬうるふる
らどわぐくかむのぢにようるるに
形も王義之の東床のうるるく。劉晏
のはめる油いうにうーくやーひるを
ハ蓮花は変りうさうるわ形わつ
めをクうるうるうるよ。奥ひうくるいある
川すーいかうく。鯉魚ようるー。来の
亭ようにうぢ鎖生ぢ男ようう

蘭水うち井ぶくみ。ちぐしげるに。風なせる人くるまくるまに。下り川落よむもそぐ。
そ一向孫楚の枕をねぶ。そ形ぬやく
乃ちれば。三ぎをみぐ。にぐ。紀森
の木をもやぐ。海代のたのしさ。幾多年
ふ。蝉のむ。ふ。公凡もとに。ぬ。へて。幕
れ間ゆ。く。けさ。ぶ。ふ。れ。に。ぶ。ほ。ふ。
美。ふ。人。ふ。ふ。せ。我。ぬ。ぬ。ぶ。て
ふ。ふ。ふ。る。て。や。む。け。さ。ぶ。ふ。
ひ。一。ち。に。ら。け。む。ふ。ち。ぶ。ち。
ぶ。り。川。水。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

なげ入たもむ。ふ。ふ。魏帝は呉質に
ぶ。ふ。ふ。ふ。書。ふ。ふ。清泉浮瓜を送
ふ。ふ。ふ。傷元の冷。く。彫せ。ふ。く。ふ。ふ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。陵が句もけ地の人ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
曲水の富ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
に。松風吹をくる。波もそのまぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。琴ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。名ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
蛍火ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

なつかしき感傳の賤とやど自照於陋形歌
紀羅鄴の詩ハ紅蠟滿歌筵とけるこ
そゞかさるとゝいへば又蘭草の大小とけの
孫とそびのあるきみとゝゝゝゝゝ
つくづくにくもちぶ家げにくしうるとも
けゝ文のこゝろなつかしく千のこゝろ
ゝぞかぶゝる
匡房ゝ神仏乃糞とすることたゝしき出
うけはやゝおぼの之すがゝ家俊久ゝ
ゝるゝ神仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝいやゝかぶるふ

○瀬見小河　此河ハ社の南のうゝ也光切かゝ義社ゝ
合ゝ時長明月のゝゝ此ゝ一つゝやせとれをゝの清
けゝ八月ゝ流れたつ○くゝそゝゝむどゝみゝ光
入道判者のくゝゝうゝはやゝゝゝゝけゝ流れゝ。
又歌昭判ぎゝ小ハ此川いでゝ木のゝゝ歌くゝゝむへ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ歌昭ゝ遊くゝゝいのゝゝ
乃實ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝびゝ文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かもう社

吉田
本社最上殿
明星水
観音堂
卜部氏家

吉田

○此所二条より上れば也。東野路也。道もよろしく興あり。河原あり。村家よらしうもあらしも。居住の人多し。拾遺より魚盛けくもつるべ者の代りもとも請じもられ也

○社　鞍ふくより南向八幡宮也

家上所也

宮の破風に日本家上日高日宮とかきたり

ありの額をも。崇徳天皇の震翰なるもそなはれ
下に。大元宮との額有。後土御門の震翰や。
又は源に。日本国中三千餘座天神地祇八百
萬弗とうけつがくるも。清和源氏の名家なり
なりもし。此額のたちに。
後陽成院乃震翰なり
し社ハ。吉日社なり。貞観年中に。中
納言藤原山蔭卿建営なりしそ。一條院
永延元年に。奉幣ありしなり。
奈良京より。春日社長岡京より大原野平安城
より。吉田社なり。帝願よりなり。

ちなみ給ふ。又御堂関白
道長公法成寺なる。吉田社をうつ
興福寺なる春日社より

○八神殿　本社の後南向なり
殿のなかの鳥居に元なる八神殿とうけ
額をかけ。書士のなり。

○春日神　なる社なる小一所にまつりて南
ひがしに社なり

○神樂岡　春日神乃社の西にあたるところ
なる村なり。その間に少社数座あり。
こゝに載集の律師慶運の立のよし。つたへを
ひきて。こゝにしるされたり。山城
郡にあり。さらめ。こゝにあるは罌粟
ひきてなるべし。中華にも多き事。丹丘方
丘なるべし。天地なるまゝなるやうに。神社
器にも多く名さまこゝに
すべし。神名帳に。高野郡山中に一社ありて
を。當の祭神しるしてよりのもと
如。さてこゝに。吉田の地にも。神社列裂畱
神とて
條院の頃ト部兼延こゝにめくり。社務職と
なる。藤氏の系図にもこれ。春日社をうけて
しるしこゝに。日神の天岩戸におりをり時。
諸神神楽をなしたまふ。その中に
おくりをしたまふ。所にこのことを。神楽
岡といふこゝ。ト部家説にしるし侍
延喜式第二霹靂神祭三座坐山城國愛宕郡
神楽岡西北四月今ト部二人十日祭之十二月亦
同

天代を行ひいにしへの弥高き松と
みてもの名やそうんゆく為家の子
吉田のせ清ハ天児屋根と神ろれ給ふ
の孫雷大臣仲哀天皇の時卜部姓ハ八世孫
鰐大連卜部と改めく中臣姓となる二十一世の孫大織
冠中臣鎌足改めく藤原氏となる大織冠朝家のあふ
賊臣入鹿を誅しめさしこ来れ給ふ
鎌足男不比等より伊勢へ遣ハ清丸ハ高皇産霊のおや
ゑと中臣となる清丸ハ世代千丸小ゑ卜部
姓ハ改めけるなり

○明星水　社のおろ橋ろ東の方ハ井也。
卜部一位兼俱ハ水ハ垢離し賞紫ふく
ゆ者ハ星。中ゑ星ぬ星ぬ
ゑ者ハ曽の信公荘ゑ乃伐ハ星。石上ゑ
ゑ。ゑ。ゑ。

○日隆坂　吉田山東のふもとにあるなり
俗呼井ノ口。日輪澤下のうしろ云
伝ふるなり

○龍澤池　社の西にある也。是ハ奈良ハ猿澤池にならひ
池より龍ノ出ると云
唐　中華ハ龍澤と云
ふよりなり

○観音堂　日隆坂乃左にあり。中納言法下慈
恵の故房也。建礼門院御幸入御のまへ
○しるしあるべし

吉田寺

○此寺ハ吉田村の南にあり。西向ハ堂也。本尊ハ
観音なり
吉備太臣建立ぜし。世のあらましふ七観
音ありて、七所へ一安ずるなり伝ふるなり
その一つなり
義正寺

○此寺ハ吉田の南東也。日蓮宗旨なり
関白秀次公ハ菩提所なり。公の御
位牌ハ隨龍院殿ハ新ル公の御
公の出新ル。二つ有。是ハ

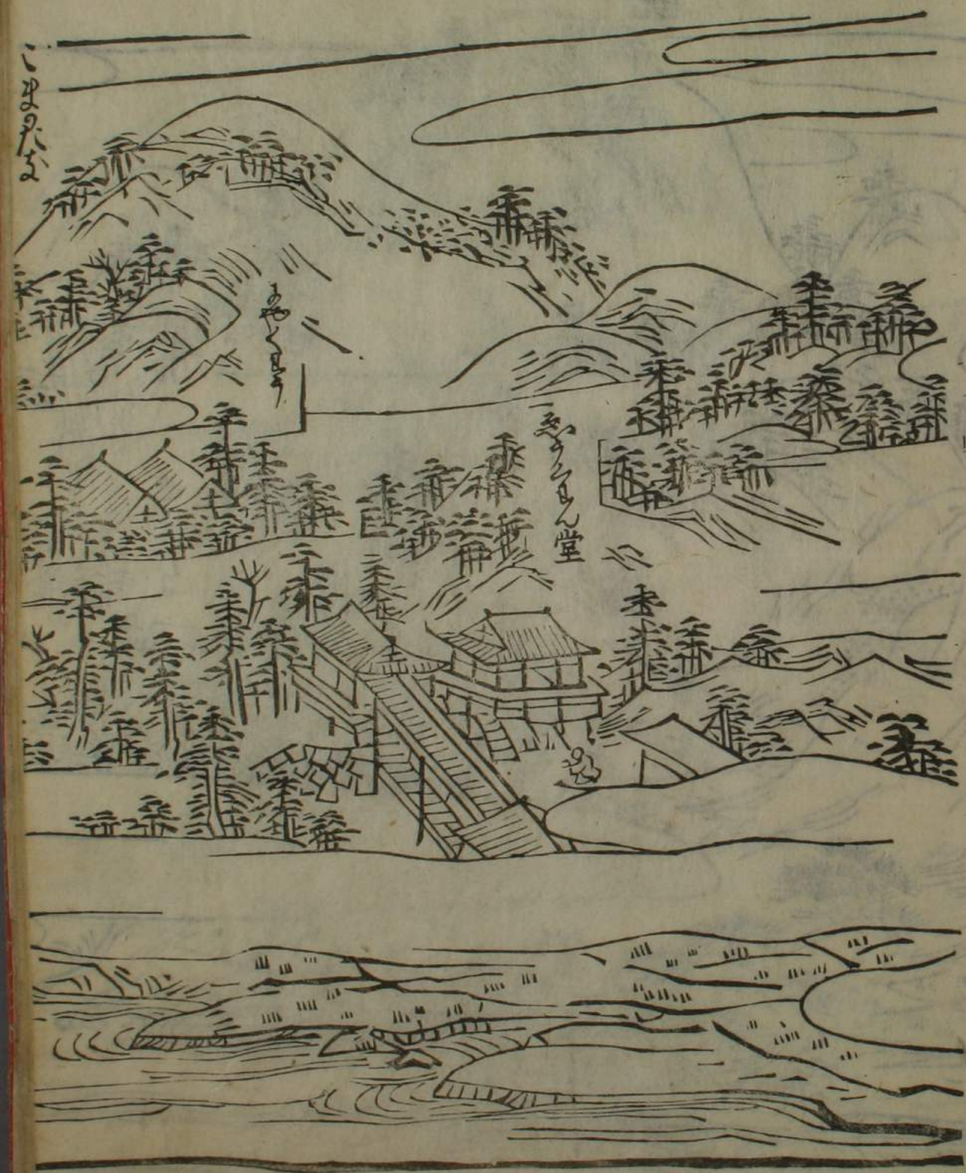
余の親属山本主殿同三十郎墓
なる公紀伊のこゝる師のくれ金害に及びし
と紀のれ二人いまで来せるだとゝ
てきうげる極くしく切腹し弥生めざ
ちしてたゝとよやおなげ道ぜ折ふれ
たのもを小思ふなるまばくぞ書伝の紀

○脊福院　けだし古回の三乃方く仏教弘
法なるべし弥生伝授みて弘やまてうの間く

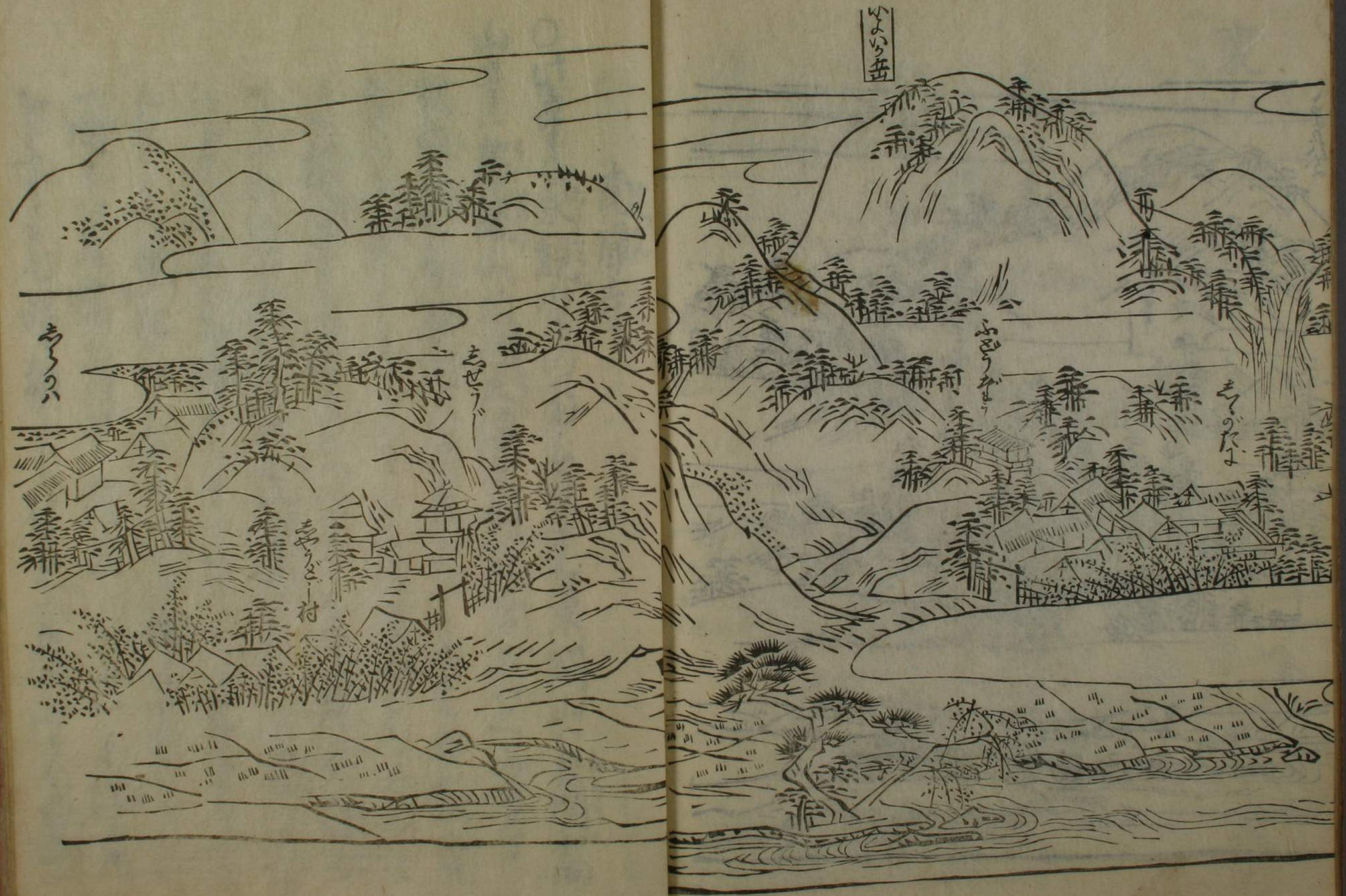
○神奥院　けだしそ脊福院の南く奥蛭法師
世代のくくうずさ不世さもわるべくみく
ていと困なるれば司空圖の伝くくのなるめばそう

清安仁の乳篇よりづざて南居ずと拾ひ
ハさぞか和のりく云くれめ注乃秋注乃
ぬる代いざなれけだしよさうりぞう日まて世び
けりくぞうくけれ彼の作えすくこのくく
を又ゑ言清の紀つ篇とづけくめぞれる
吉田山上小古院阪廉寛御を後寛弘庭深寛
南撰夫体父外郎ゑ貢新遠撰下映新月一樹
梢ゑ色殺

○長刀坂　けだしハ鹿谷へりる道


こまのたな
ちゃうこくもん堂

東山
なんぜん


ゆよいの岳
ふるとうだう
もてのたよ
ちせうじ
もうどう村

南禪寺

○此寺ハ。永觀堂の南ニ条ハ東。開山ハ無關和尚
山号ハ瑞龍山。目住天海之例被居九山之上者乎
釈德俊ハ相模列乃人也。しゝめ母鎌倉
路乃ゝゝゝ

成御しるしとぞ。文保元年に。南禪の寧一山
寂して後。後宇多上皇元帥の和尚。倹
とめ。ぬこ多乃みこと。山勝成ぬ
しけるバ。上皇のゝく礼遇成渥しゐひ
て。その数利の擬唱學者傳論しゐ。亜
上堂曰昨日萬物咸舊。今朝萬物咸新。細看
迎新送舊。元来無流無親。拈起桂杖木上座莫
有隨新舊遷變去也麼。千古里蝉鼓萬
年一般春。上堂曰向上一路千聖不傳。誰家竈
裏無煙。向上一路千聖不然。脚下地頭上天氣
鐵鎚當面擲。元来不直半文錢。擲拂下座元

應二年五月十の日。偈成書。衆に辭は
迂化。七十六。病中にて。佛燈國師しゐ
ものゝ

永觀堂

○ひ寺ゝ。南禪寺の小若ゐる南
釈永觀。姓ハ源氏。東大寺有慶に之論成学ひ
諸宗をこゝ。乃ちゆ洛東ゆ居徐林ゆ
ゝく。世の交成ぬ。安養しゐて。七宝塔
成けくゝ佛舎利二粒をおさめく。誓しけ
ゐハ。のゝ。ゆ。ゝ。又藥王院

丈六尺乃彌陀像はなり。南京の衆
遷にしたがひ。申宮（上西門）しるめ。東大寺務（ほうず）
なれば。寺供をうけ。そこにて然（ねん）
ばたくうへなどし。慈仁のわたりにて
獄畢（ごくひつ）（門人有所）よりて。飢寒（きかん）を向（むかひ）て。観（かん）
ゆ。いとまなくして。けまどにて
俊學（しゅんがく）のよゆるべし。病（やまひ）を善知識（ぜんちしき）といひて
打（うち）を清（きよ）め。梅（うめ）の花（はな）や。天永二年の
秋。はるばるよりて。法（ほう）の清（きよ）めのうるはしく
ハ。すこう。世尊（せそん）八十にして涅槃（ねはん）し給（たま）ふ。
親今（しんこん）ばかりの記（きろく）なり。

よりて法をて。其（そ）ナ一日二日に沐浴（もくよく）し念仏
こゑ絶（たえ）ぬ。西（にし）へ向（むかひ）て。おりゐぬ。もとより異（ことな）る
思（おもひ）ふ。ふ。解（げ）脱（だつ）
見返仏（みかへりぶつ）

ひのもとに。永観律師（えいかんりつし）。衆（しゅう）にして。嫌（けん）遊（ゆう）
しけるおもひ。禅（ぜん）子（し）乃（すなわち）ひとりけ行（ぎょう）
ゐ。もたれもたれたる。むもびしらぬ。
ぶ。ぶ。て。の乃（すなわち）阿弥陀（あみだ）ぶつ。
永観（えいかん）おそ。の。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
て乃（すなわち）。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

人れ信仰弱のうつくしひ事ハ
いまにこの谷乃首ハ
かつてくるまつ。まことにさのごとく
世におほのあるとかけたるとし
ゆくもどたぐこそ
さふりくるまつ。げふらてぐれてくるもや
神仏ハ。くこそ
けさ乃うち小窓ふおりをなくべ最仏の
けまつ。勤学の
ら記境地とこそ

鹿谷

○けふ鹿谷ハ。如意宝山のふもとにあり
後寛僧都の山庄なりしひ修へ今し
村家おほくを形ちなし

○如意宝山　鹿谷の上也。日本五岳の一なり
金剛宝山　如意宝山　愛宕山　比叡山　河
高千穂峯　日向　見なを乗そのこゝよりを七月十
六日ハ夜。四方乃山ハ松明をくぬ法大のこ
字。或ハ船のたゝうりをぐはくゆ事也。そのハ
ち。大ちゝのハ。如意峯ハ。ぼを。静運院
御門主のれ爪はるのわとでこそこゝをくれ

となりて。そらに人をつくりたるなり。されども。
那の之獄ハ。東ハ泰山と云山なり。完那と云ふなり。
西ハ華山と云。山西の華山列と云ふなり。南ハ衡山
と云。湘廣の衡那と云ふなり。北ハ恒山と云直隸
の北那なり。つまり。中ハ嵩山と云ふ河南なり
西京にてとて
○ゆきのく。伐云ふ所へくおけるなり。七瀬東七ヶ
山なりくくて。ゆ那ハ。濃と江之湖之年そ
さけなり。やれ名にのふハ。那の住家
○宮名のんさ。わるへ人ぱるべ人あるべ。
えめりんりゆのふ。ふりのふ。ふりのふ。ふ

さるもくさるなり。井堰のた
とへらるげさるもの。ざくるるだんの
小谷ハ小人の大谷なり。ひくおりひるとそ
○駒龍　廣谷のうへ十條町ばかり。滝の大さ
七八間をたのしん。雨ハ後よハ。ふりの流を
雨。ちづさづ。少なき。遠ハよりも
山ふるもそ。伏見ぬ

白川

○けとこの京ちわ一里下鴨の東也
里村ばくしくなりて。ふうこの

どもはなはだつまらぬ。こちのくさの関
やぐらはつぐなる徒ばかりにて一しうよ
ふくて松うらむのくあまはまなるぐらやあぬ
ぬ。後頼朝をこりむしや。月も程なく宵
く海さまはかぐ名にしおへるしるべ。
みだしてもけふはくさ名うつ。さのぐく
てはどもさきなるしんう。ほとゝぎすさて
いて。おもしろなるめくゆるるて。馬車
むしたちけれく。色こにさきなるしろ
石どもの也。女童いくくたちどもの
なるひなるもぞ。揚やみのうちぶげむか

ぶやとこゝろこゝろにおもひつゝまるもこのあ
青列の性石祈安の義石まれくおほくを
てなり。崔公八勲石亭を作るまて。抑て屋の
白こゝいつる。亭章公ちゝ太湖石と呼くく白
居易の亭ゝ。蘇子瞻八怪名供
なるゝ。歐陽公ちゝ大石記をかゝり。さ
いけるとゝさあるこゝなれば。抑此所の石
のあるを白くてものふるたる色なるべかく
くもんいつゝみ仏れへさや
○檜垣森　白川の小なるもなるべ。紫式部の名のる
をとゝもてや

浄土寺村

○此所ハ白河乃東なるゆゑ家なゝ立ならぶる村なり

○慈照寺　此寺ハ浄土寺村の東のはしにあり

義政将軍東山殿号慈照院延徳二年正月七日薨ス　山荘を提ずる也

院乃御庭に銀閣あり。銀閣ハ三層にして上層ハ仏殿にして

ら[illegible]ぶ